



あいさつ

さいたま市教育委員会  
教育長 稲葉 康久

さいたま市立原山小学校が、平成26・27年度のさいたま市教育委員会委嘱による「我が国の伝統や文化を尊重する教育」の研究指定校として、その成果を発表されますことに、心からお喜びを申し上げます。

グローバル化が進む中、国際社会で活躍する日本人を育成するためには、異なる言語や文化をもつ人々と共に生きていくための資質・能力を身に付けることが必要です。

現在、中央教育審議会においては、外国語で他者と交流するために必要な力や、我が国の伝統文化に関する深い理解や多文化への理解等を、どのように育んでいくかについて審議しております。

そのような中、原山小学校は、「豊かに考え、生き生きと学ぶ児童の育成」を研究主題に、「伝統や文化に親しみながら」を副主題に掲げ、国語、道徳、特別支援学級における生活単元学習を中心に教育活動全体において、組織的、計画的に学校課題研究に取り組まれました。

原山小学校の研究は、「日本の伝統や文化っておもしろい!『もっと読みたい』『他にも知りたい』『自分もつくってみたい』『使ってみたい』」と具体的な児童像を設定し、その具現化に向けて、「授業の改善」「環境の整備」「体験の充実」の3つの視点を基に、「ふれる・知る・考える」ことを重視して研究に取り組まれた点が特色として挙げられます。

具体的には、国語と生活単元学習の授業において、昔話、かるた遊び、我が国の主食である米等を取り上げ、導入を工夫したり体験的な活動を多く取り入れたりして授業の改善に取り組まれました。道徳においては、様々な活動で感じたことや考えたことを基に、伝統と文化のもつ道徳的価値や、それと自分とのかかわりについて考えを深められるよう工夫されました。

また、廊下や階段等に、季節の言葉、俳句、ことわざを掲示することより、児童が伝統や文化に対して日常的に興味や関心を高められるよう、学習環境の整備に取り組まれました。

さらに、「きらめき☆ジャパネスク」において、箏、鼓、尺八等の和楽器を演奏したり、地元に伝わるお囃子や室町時代から伝わる能を鑑賞したりする機会を設定することにより、児童が我が国の伝統や文化を味わうことができるよう、体験活動の充実にも努められました。

開校60周年の節目の年に、我が国や地域の伝統や文化に「ふれる・知る・考える」ことを重視して取り組まれてこられた原山小学校の研究は、伝統や文化を見つめる目を養い、伝統や文化に自ら親しみ、生涯にわたって我が国や郷土に誇りをもたせる研究として大変示唆に富むものと考えます。

各学校におかれましては、原山小学校の研究成果を自校の実態に即して生かし、より一層我が国の伝統と文化を尊重する教育の充実に努めていただきますようお願いいたします。

結びに、高村達夫校長先生をはじめ教職員の皆様、御支援くださいました保護者や地域の皆様に感謝を申し上げ、あいさつといたします。